

1 人口総数

—人口 1,425,512 人、増加率 7.4%—

平成 22 年 10 月 1 日現在の川崎市の総人口は 1,425,512 人で前回調査の平成 17 年に比べ 98,501 人、7.4%増加しました。

本市の国勢調査人口の推移をみると、大正 9 年（第 1 回調査）には 85,189 人でしたが、昭和 15 年には 30 万人を超え、終戦直後の昭和 22 年に行われた臨時国勢調査では減少したものの、昭和 30 年に 40 万人台、昭和 50 年に 100 万人台となり、今回の調査では 140 万人台の人口となりました。

また、人口の増加率の推移をみると、昭和 10 年までは 30%前後、昭和 15 年は 57%、終戦直後は減少したものの、昭和 25 年には朝鮮戦争の特需景気を契機として戦後復興の軌道に乗り再び増加し、高度成長・所得倍増政策のもとで京浜工業地帯の中心である本市の産業は飛躍的な発展をとげ、技術革新の最先端を行く工場の新增設が活発に行われたことに伴い昭和 30～40 年は 40%前後と高水準が続きました。しかし、不況や環境悪化により昭和 45 年には鈍化し、石油危機後の昭和 50 年に初めて 1 桁台となり、昭和 55 年には 2.5%まで低下しました。その後、北西部の住宅開発などによる人口増により昭和 60 年は 4.6%、平成 2 年は 7.8%と上昇傾向にありましたが、バブル景気が崩壊し、景気が低迷する中で行われた平成 7 年の調査では 2.5%と低下し、大正 9 年以降、終戦直後を除くと最も低い増加率となりました。平成 12 年には引き続き景気が低迷しているものの、社会増加（転入者数－転出者数）が増したことにより、再び 3.9%と上昇し、景気の回復傾向にあった平成 17 年調査では、増加率は 6.2%となりました。今回の調査では、7.4%増となり政令指定都市移行後（昭和 50 年国勢調査以降）では、平成 2 年の 7.8%に次ぐ高い増加率となりました。これは、企業が売却した工場や社宅の跡地などで大規模な住宅建設が増加し、多くの人々が本市に転入したことなどが要因と考えられます。（表 1・図 1）

図 1 国勢調査人口と増加率の推移

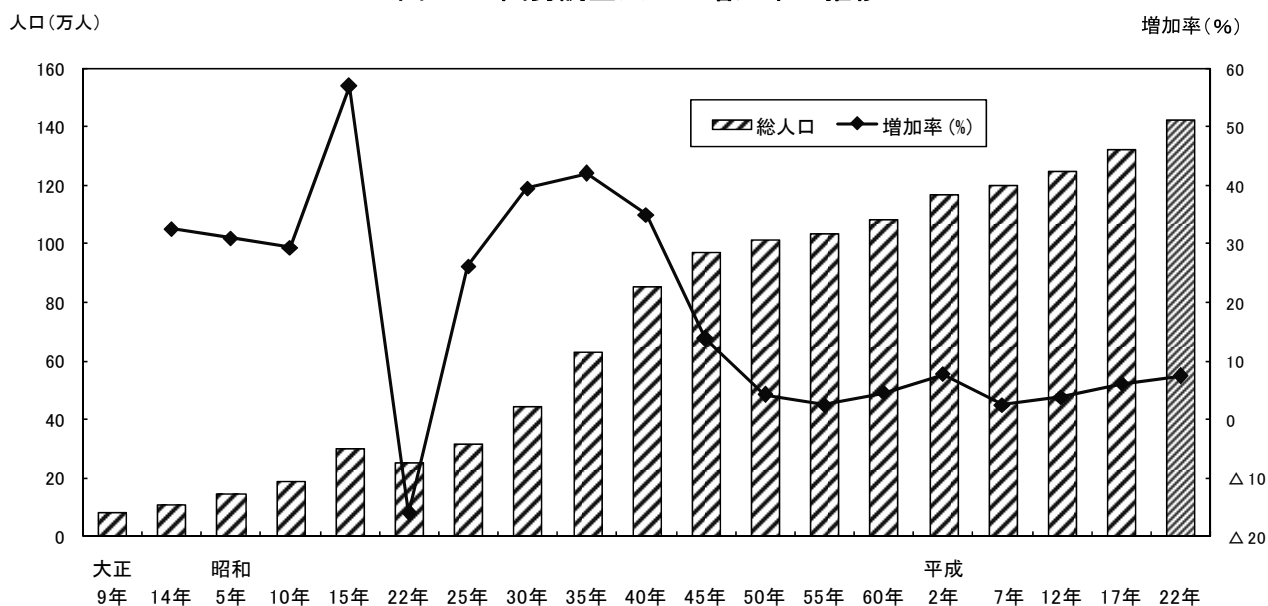


表 1 国勢調査人口の推移

年次別	総人口	男	女	性比	増加人口	増加率(%)	備考
大正 9年	85 189	43 454	41 735	104.1	—	—	第1回国勢調査
14年	113 034	58 180	54 854	106.1	27 845	32.7	第2回国勢調査
昭和 5年	148 165	76 483	71 682	106.7	35 131	31.1	第3回国勢調査
10年	191 700	99 820	91 880	108.6	43 535	29.4	第4回国勢調査
15年	300 979	165 673	135 306	122.4	109 279	57.0	第5回国勢調査
22年	252 923	133 714	119 209	112.2	△ 48 056	△ 16.0	第6回国勢調査(臨時)
25年	319 226	166 023	153 203	108.4	66 303	26.2	第7回国勢調査
30年	445 520	231 894	213 626	108.6	126 294	39.6	第8回国勢調査
35年	632 975	334 490	298 485	112.1	187 455	42.1	第9回国勢調査
40年	854 866	451 537	403 329	112.0	221 891	35.1	第10回国勢調査
45年	973 486	511 073	462 413	110.5	118 620	13.9	第11回国勢調査
50年	1 014 951	532 890	482 061	110.5	41 465	4.3	第12回国勢調査
55年	1 040 802	543 269	497 533	109.2	25 851	2.5	第13回国勢調査
60年	1 088 624	569 061	519 563	109.5	47 822	4.6	第14回国勢調査
平成 2年	1 173 603	617 425	556 178	111.0	84 979	7.8	第15回国勢調査
7年	1 202 820	629 804	573 016	109.9	29 217	2.5	第16回国勢調査
12年	1 249 905	649 997	599 908	108.3	47 085	3.9	第17回国勢調査
17年	1 327 011	687 080	639 931	107.4	77 106	6.2	第18回国勢調査
22年	1 425 512	728 525	696 987	104.5	98 501	7.4	第19回国勢調査

(注)平成22年の市域に組み替えた人口です。

—全ての区で人口増加、人口密度は中原区が最も高い—

各区の人口をみると、中原区が233,925人(構成比16.4%)で最も多く、次いで宮前区218,867人(同15.4%)、高津区217,360人(同15.2%)、川崎区217,328人(同15.2%)、多摩区213,894人(同15.0%)、麻生区169,926人(同11.9%)、幸区154,212人(同10.8%)の順となりました。前回調査の順位と比べると、前回5番目だった高津区が3番目になり、前回3番目だった多摩区が5番目と順位が入れ替わり、その他の区の順位は変わりませんでした。

区別人口の推移をみると、平成2年は全ての区が増加となりました。平成7年には川崎区、幸区で人口が減少し、平成12年は減少幅が小さくなったものの再び両区で減少しました。平成17年と、今回の調査では、全ての区で増加となりました。

また、全市の人口密度(人/km²)は9,875人で、前回調査より682人増加しました。

区別にみると、中原区が15,795人(1,579人増)と最も高く、次いで幸区15,284人(964人増)、高津区12,711人(910人増)、宮前区11,767人(590人増)、多摩区10,490人(417人増)、麻生区7,353人(728人増)と続き、埋立地や大規模工場群をかかえている川崎区が5,399人(336人増)で最も低くなっています。前回調査と比べると、中原区が幸区を抜き1位になりました。(表2・3・図2)

表 2 区別の人口等

区 別	面積 (km ²)	世帯数	人 口			対前回人口増加		1世帯 当たり 人員	人口密度 (人/km ²)	性 比 (女100人 につき男)
			総 数	男	女	計	率 (%)			
全 市	144.35	662 694	1 425 512	728 525	696 987	98 501	7.4	2.15	9 875	104.5
川 崎 区	40.25	105 586	217 328	115 800	101 528	13 524	6.6	2.06	5 399	114.1
幸 区	10.09	70 680	154 212	78 882	75 330	9 725	6.7	2.18	15 284	104.7
中 原 区	14.81	117 190	233 925	121 046	112 879	23 382	11.1	2.00	15 795	107.2
高 津 区	17.10	101 753	217 360	109 905	107 455	15 568	7.7	2.14	12 711	102.3
宮 前 区	18.60	92 164	218 867	109 096	109 771	10 972	5.3	2.37	11 767	99.4
多 摩 区	20.39	103 595	213 894	110 844	103 050	8 505	4.1	2.06	10 490	107.6
麻 生 区	23.11	71 726	169 926	82 952	86 974	16 825	11.0	2.37	7 353	95.4

(注)面積は川崎市の公表数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

－中原区と麻生区で11%台の高い人口増加率－

各区の人口の増加率をみると、全ての区で増加しており、中原区 11.1%（増加数 23,382 人）が最も高く、次いで麻生区の 11.0%（同 16,825 人）で 10%を超える高い増加率となりました。以下高津区 7.7%（同 15,568 人）、幸区 6.7%（同 9,725 人）、川崎区 6.6%（同 13,524 人）、宮前区 5.3%（同 10,972 人）、多摩区 4.1%（同 8,505 人）の順となりました。

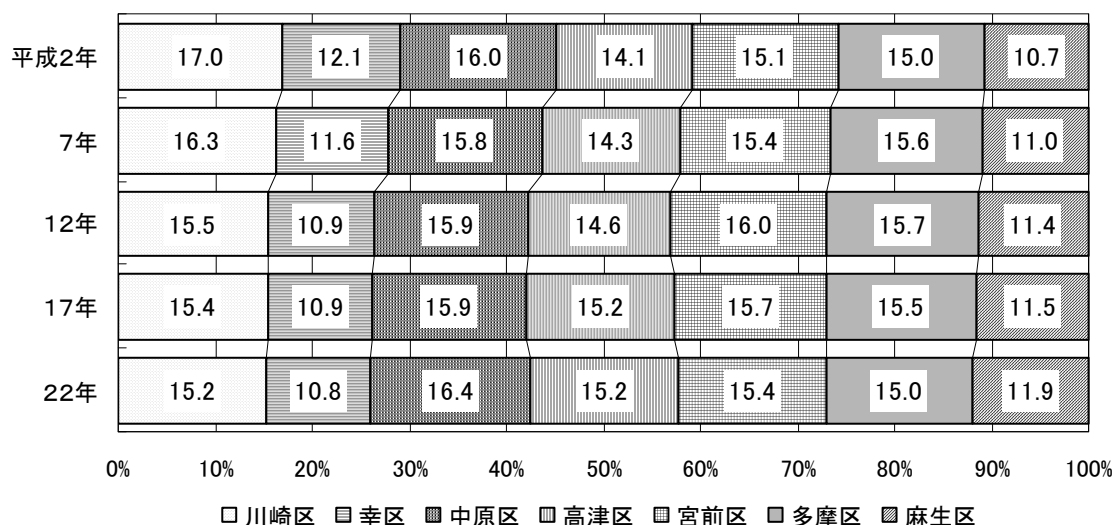
前回調査の人口の増加率（17年～22年）と比べると、中原区で 4.9 ポイント、麻生区で 3.4 ポイントと大きく上昇しました。その他の区では、川崎区が 1.6 ポイント、宮前区が 1.4 ポイント、幸区が 1.2 ポイント上昇しました。一方、前回調査の増加率が最も高かった高津区は 3.1 ポイント低下し、多摩区は 0.4 ポイント低下しました。

また、区別人口割合の推移をみると、平成 2 年には最も割合の高かった川崎区（17.0%）と、最も割合の低かった麻生区（10.7%）の差が 6.3 ポイントだったのに対し、今回の調査では最も割合の高かった中原区（16.4%）と、最も割合の低かった幸区（10.8%）の差は 5.6 ポイントと縮まっています。（表 2・3・図 2）

表 3 区別人口の推移

年次別	全 市	川崎区	幸 区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
	実 数 (人)							
平成 2年	1 173 603	200 056	142 320	187 707	165 081	177 742	175 570	125 127
7年	1 202 820	196 338	139 134	190 385	172 196	185 485	187 042	132 240
12年	1 249 905	194 091	136 487	198 300	182 112	200 040	196 637	142 238
17年	1 327 011	203 804	144 487	210 543	201 792	207 895	205 389	153 101
22年	1 425 512	217 328	154 212	233 925	217 360	218 867	213 894	169 926
	増 加 率 (%)							
平成 2年	7.8	3.1	3.7	2.3	8.1	10.7	15.3	15.5
7年	2.5	△ 1.9	△ 2.2	1.4	4.3	4.4	6.5	5.7
12年	3.9	△ 1.1	△ 1.9	4.2	5.8	7.8	5.1	7.6
17年	6.2	5.0	5.9	6.2	10.8	3.9	4.5	7.6
22年	7.4	6.6	6.7	11.1	7.7	5.3	4.1	11.0

図 2 区別人口割合の推移



－人口総数は 20 大都市中第 9 位－

19 政令指定都市と東京都区部を含む 20 大都市について比較すると、東京都区部が 8,945,695 人で最も多く、次いで横浜市が 3,688,773 人、大阪市が 2,665,314 人、名古屋市が 2,263,894 人と続き、本市は 1,425,512 人で 9 番目となりました。

前回の調査と比べると、静岡市（前回 18 位）と相模原市（前回 19 位）の順位が入れ替わりましたが、その他は前回と変わらない結果となりました。

本市は、昭和 60 年調査で北九州市を抜き 9 番目になって以降、同じ順位を維持しています。

また、20 大都市の人口の合計は 35,363,607 人で、全国における構成比は 27.6% となり、4 人に 1 人以上が大都市に住んでいることがわかります。一方、本市の全国における構成比は 1.1% となり、およそ 90 人に 1 人が本市に住んでいることとなります。（表 4・5）

表 4 20 大都市の人口等

都市別	面積 (km ²)	世帯数	人 口			人口 増加率 (%)	人口密度 (人/km ²)	1世帯 当たり 人員
			総 数	男	女			
札幌市	1 121.12	885 848	1 913 545	896 850	1 016 695	1.7	1 707	2.2
仙台市	788.09	465 260	1 045 986	507 833	538 153	2.0	1 327	2.2
さいたま市	217.49	503 126	1 222 434	611 236	611 198	3.9	5 621	2.4
千葉市	272.08	406 309	961 749	480 194	481 555	4.0	3 535	2.4
東京都区部	621.98	4 540 746	8 945 695	4 412 050	4 533 645	5.4	14 383	2.0
川崎市	144.35	662 694	1 425 512	728 525	696 987	7.4	9 875	2.2
横浜市	434.98	1 583 889	3 688 773	1 849 767	1 839 006	3.0	8 480	2.3
相模原市	328.84	302 815	717 544	361 394	356 150	2.3	2 182	2.4
新潟市	726.10	312 533	811 901	390 406	421 495	△ 0.2	1 118	2.6
静岡市	1 411.85	279 019	716 197	348 609	367 588	△ 1.0	507	2.6
浜松市	1 558.04	300 444	800 866	397 146	403 720	△ 0.4	514	2.7
名古屋市	326.43	1 021 227	2 263 894	1 116 211	1 147 683	2.2	6 935	2.2
京都市	827.90	681 581	1 474 015	701 088	772 927	△ 0.1	1 780	2.2
大阪市	222.47	1 317 990	2 665 314	1 293 798	1 371 516	1.4	11 981	2.0
堺市	149.99	344 465	841 966	404 756	437 210	1.3	5 613	2.4
神戸市	552.83	684 183	1 544 200	731 114	813 086	1.2	2 793	2.3
岡山市	789.91	296 790	709 584	341 158	368 426	1.9	898	2.4
広島市	905.41	512 907	1 173 843	565 482	608 361	1.7	1 296	2.3
北九州市	487.89	420 702	976 846	459 305	517 541	△ 1.7	2 002	2.3
福岡市	341.32	707 358	1 463 743	692 648	771 095	4.5	4 288	2.1
大都市平均	611.45	811 494	1 768 180	864 479	903 702	2.0	4 342	2.3

(注) 面積は川崎市が独自で把握した数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

表 5 地域別の人口等

地域別	面積 (km ²)	世帯数	人 口			人口 増加率	人口密度 (人/km ²)	構成比 (%)
			総 数	男	女			
全 国	377 950.10	51 950 504	128 057 352	62 327 737	65 729 615	0.2	(1) 343	100.0
市 部	216 209.27	47 670 906	116 156 631	56 569 051	59 587 580	0.6	(1) 538	90.7
郡 部	161 654.94	4 279 598	11 900 721	5 758 686	6 142 035	△ 3.0	(1) 76	9.3
神奈川県	2 415.86	3 844 525	9 048 331	4 544 545	4 503 786	2.9	3 745	7.1
大都市合計	12 229.07	16 229 886	35 363 607	17 289 570	18 074 037	2.9	2 892	27.6
大都市以外	365 721.03	35 720 618	92 693 745	45 038 167	47 655 578	△ 0.8	253	72.4
川崎市	144.35	662 694	1 425 512	728 525	696 987	7.4	9 875	1.1

(注) 面積は川崎市が独自で把握した数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

(1)は 国勢調査令の規定に基づき、調査の対象から除外された地域の面積を除いて算出しています。

－人口増加率は20大都市中第1位－

20大都市の人口の増加率をみると、本市は7.4%で前回調査に続いて1位となり、大都市平均の2.0%を大きく上回りました。次いで、東京都区部の5.4%、福岡市の4.5%、千葉市の4.0%、さいたま市の3.9%増と、首都圏で大幅に人口増となり、首都圏以外では福岡市の伸びが目立ちます。一方、新潟市、静岡市、浜松市、京都市、北九州市ではマイナスになりました。

また、全国を地域別に分けて増加率をみると、市部と郡部では市部が0.6%だったのに対し、郡部では△3.0%となりました。全国を大都市と大都市以外に分けると、大都市の合計では2.9%だったのに対し、大都市以外の合計では△0.8%となりました。(表4・5)

－人口密度は20大都市中第3位、全国の約28.8倍－

20大都市の人口密度(人/㎢)をみると、本市(9,875人)は、東京都区部(14,383人)、大阪市(11,981人)に次いで3番目に高い値となり、20大都市の中でも上位に属しています。

また、人口密度を地域別にみると、全国の343人に対し、本市の9,875人は、約28.8倍と非常に高くなっています(表4・5)

－人口指数は20大都市中第1位－

大正9年実施の第1回国勢調査の結果を現在の市域に組み替えた人口を100として、大都市の人口指数を比較すると、本市の値は1,673となり、20大都市の中で最も高い値を示しています。

また、全国の値の229に対し、本市の1,673は7.3倍にもなり、本市の人口集積の高さを示しています。(表6)

表6 20大都市の人口指数

都市別	人口		人口指数 (大正9年 =100)	都市別	人口		人口指数 (大正9年 =100)
	大正9年	平成22年			大正9年	平成22年	
全 国	55 963 053	128 057 352	229				
札幌市	144 630	1 913 545	1 323	浜松市	321 498	800 866	249
仙台市	190 013	1 045 986	550	名古屋市	677 452	2 263 894	334
さいたま市	122 479	1 222 434	998	京都市	736 462	1 474 015	200
千葉市	90 307	961 749	1 065	大阪市	1 786 627	2 665 314	149
東京都区部	3 358 186	8 945 695	266	堺市	163 760	841 966	514
川崎市	85 189	1 425 512	1 673	神戸市	746 254	1 544 200	207
横浜市	562 304	3 688 773	656	岡山市	291 809	709 584	243
相模原市	58 103	717 544	1 235	広島市	305 773	1 173 843	384
新潟市	333 746	811 901	243	北九州市	433 185	976 846	226
静岡市	263 098	716 197	272	福岡市	239 956	1 463 743	610

(注)平成22年の市域に組み替えた人口です。